

子どもの貧困悩み聞いて

仕組みづくり厚労相提言

大社高・成相さんチーム



提言する成相優花さん(中央)ら—東京・霞が関、厚労省

子どもの貧困問題を考えるプログラムに参加している大社高校(出雲市大社町北荒木)3年の成相優花さん(18)ら高校生と大学生のチームが18日、東京・霞が関の厚生労働省を訪れ、加藤勝信大臣に問題解決に向けた提言を行った。ひとりの親家庭や児童養護施設で育ったメンバーは、同じ悩み

を抱える高校生たちが会員制交流サイト(SNS)を通じてつながる仕組みを提案。成相さんらは「一人で抱え込まず、コンプレックスを克服できるきっかけになってほしい」と話した。提言は、次世代の人材育成に取り組み一般財団法人・教育支援グローバル基金(東京都)の事業「ビヨ

ドトゥモロー」の一環で行った。全国から選ばれた高校生と大学生計70人が10月に都内に集まり、九つのグループに分かれて子どもの貧困問題の解決策を検討。審査の結果、成相さんのほか、長野や埼玉、熊本などの高校生6人と大学生1人でつくるチームが代表に選ばれ、厚労相に提言することになった。

成相さんは母子家庭で育ったことを、これまで友人らにうまく打ち明けられなかった。同じ境遇にある同世代と交流し、考えなどを共有しようとプログラムに応募したという。

メンバーと考案したスマートフォン向けのSNSは、掲示板を通じて不特定多数の人が交流ができ、直接会わなくても気軽に悩みなどが相談できる仕組み。提言を聞いた加藤厚労相は「悩みを抱える子どもたちの居場所をつくるため、協力していきたい」と、実現を後押しする考えを示した。

将来、救急救命に関わる仕事に就きたいという成相さんは「置かれた状況の中でも夢を諦めてはいけない。プログラムを通じて学んだことをたくさんの人に伝えたい」と話した。

(白築昂)